

医学部

看護学プログラム ■全人的ケアができる看護職者の育成

取得できる学位 ★学士（看護学）

■ プログラムの概要と人材育成のねらい

人々が生涯を通じて個性と能力を発揮し、健康寿命の延伸を図るために、看護の活動は病院だけでなく、地域や家庭、職場や学校と多岐に及び、さまざまなライフステージと健康レベルにある個人、家族、集団を対象としている。その活動は、高度な専門知識と看護の実践技術を基盤とし、人々の多様なライフステージと価値観を尊重した全人的ケアを目指している。したがって本プログラムは、高度保健医療、在宅看護、健康教育、さらに保健・医療・福祉の連携のもとで人々の生命の質的向上や生活の充実に寄与できる人材を育成し、保健師・助産師・看護師国家試験受験資格を取得できる教育プログラムを構成している。

本プログラムは、以下の特徴を有する。

- 1) 看護の目的・対象・方法に関する系統的学習により、応用できる課題解決力や看護実践力を身に付けることができる。
- 2) 倫理的感性や学際的な視野を身に付け、保健医療・福祉チームの一員として協働できる力を身に付けることができる。
- 3) 国際的な視点を持ち、看護専門職業人として生涯にわたって看護を探究し続ける態度を身に付けることができる。

以上、看護学領域に必要な科学・技術および保健医療の基礎知識、看護ケアの場における実践力と応用力を身に付け、保健医療・福祉の幅広い分野で指導的役割を果たす人材の育成を目指している。

■ プログラムの到達目標（期待される学修成果）

| 1 | 知識・理解

- a) 専門分野を越えた幅広い知識と深い教養。
- b) 看護の対象となる人間に係わるホリスティック（生物学的・心理学的・社会的側面を含む）な知識と理解。
- c) 看護の基盤となる人体の構造や機能、病態、治療に係わる系統的知識と理解。
- d) 健康科学、保健医療福祉活動に係わる学際的知識と理解。
- e) 現場で専門技能を応用し課題を見出し解決策を考えられる。研究に係わる基礎的知識と理解。

| 2 | 当該分野固有の能力

- a) 人間愛に基づいて対象を全人的に理解しながら信頼関係のもと対等な立場で看護実践できる。
- b) エビデンスに基づく看護過程を通して、あらゆる対象・場・状況に応じた看護介入ができる。
- c) 医療安全に関する指針等に基づいて感染を防止し医薬品や医療機器の適切な使用と安全を管理できる。
- d) 疾病予防や健康の維持増進の観点から対象（個人・家族・集団）に必要な保健指導ができる。
- e) 看護に係わる課題を探究し専門的な知識と研究手法を駆使して必要な理論を体系立て一定の結論を見出せる。

| 3 | 汎用的能力

- a) 相手を尊重しつつ誠実かつ率直に自分の気持ちや意見をわかりやすく伝えられる、自己主張ができる。
- b) チームの目標に沿って構成員の意見や行動を調整・整理し、協調性とリーダーシップが発揮できる。
- c) 基礎的な英語能力をもち、言語学習を通じて英語圏外においても活動できる資質を備える。
- d) 多文化間での活動に不可欠な異文化理解と、翻って自国の文化を客観的に洞察できる能力。
- e) 専門知識や技術をどの分野に活かせるか、社会的役割を認識しキャリアデザインに役立てられる。
- f) 調査データを解析し情報機器を駆使して情報を収集・加工し新たな解釈を見出し発信できる能力をもつ。

| 4 | 態度・姿勢

- a) 生命の尊重と個人の尊厳の保持を旨とする態度を備える。
- b) 誠意と連携・連帯の精神をもち自律的に看護を実践できる。
- c) 傾聴や対話を通して対象を共感的に理解することができる。
- d) 課題に対して主体的、客観的、創造的に取り組むことができる。
- e) 新しい知識や技術を学び看護を探究し続けることができる。

■ ■ プログラムの履修要件

- ・看護学や健康に関心があり、熱意を持ち、協調性が豊かな人。
- ・人々の暮らしと社会に深い関心を持ち、人間愛に満ちた人。
- ・生涯にわたって人間の成長を願い、人として社会貢献に意欲を持っている人。
- ・豊かな感性を持ち、看護学の科学的知識・技術の習得に熱意を持っている人。
- ・自己を見つめ、真実を探究しようとする意志を培っていきける人。
- ・高等学校で生物と化学を学び、国語、数学、英語の基礎的学力がある人。

■ ■ カリキュラム立案と学修方法についての基本方針

保健医療福祉チームの一員として、看護専門職者として、多様な職種の人々との連携を図り、かつ協働しながら人々の生命・生活の質的向上に貢献できる能力を修得できるようにカリキュラムを編成している。

教養科目では、豊かな人間性や多様な価値意識などを身に付けられるように自然科学系科目、人文・社会科学系など30単位以上を修得することを課している。そして、看護師養成の指定規則を基盤として看護師・助産師・保健師の国家試験の受験資格を取得できるように専門基礎科目や専門科目を編成している。基礎知識と理解を中心とした講義形式から看護実践に適用できるための学内での演習形式を経て、より看護実践力を高める臨地実習へと、1年次から4年次に至る課程の中で、学習が効果的に進められるような教育デザインとなっている。また、卒業研究を通じて、継続的に学習する力や看護の質を高めるための探究心を育成するプログラム内容になっている。

専門科目においては講義、演習、実習の順序で進行し、演習、実習では個別に到達目標を評価し、確実に到達目標に達するまで学習支援を行う。